

《担当者名》永野 善廣（非）

【概要】

フランスは合理性を重んじる思想・文化大国である。「自由・平等・人権」は言うに及ばず、フランスが打ち出した現代的価値観は今も世界に影響を与え続けている。他方、フランスというとファッションやワイン等の食文化で知られ、フランス語の修得を通して、邦訳ではなく直接フランス語でフランス文化の包容力に接近する。そのためには論理的なフランス語文法の理解が必須条件となる。

【学修目標】

1. 発音のスキルを身につけることができる。  
 2. 基本文法をしっかりとおさえたいうえで、ワンランク上の文法にチャレンジする。  
 3. 話せるフランス語力を身につけることができる。具体的には、「ご気分はいかがですか?」「どこが痛いですか?」「次回のアPOINTメントは来週の～曜日です」「ご出身はどちらですか?」「書類に不備はありませんか?」というような文を躊躇なくいえるようにする。

【学修内容】

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
1	発音の復習	フランス語特有の母音、子音、鼻音を発音できるようになる。	永野
2	「いいえ。わたしはフランス語はちょっと話しますよ」 副詞と前置詞の復習。	微妙な肯定文と否定文を作ることができる。フランス語特有の数の数え方、季節の言い方をスムーズに言うことができる。	永野
3	第一群規則動詞、第二群規則動詞、第三群（不規則）動詞 主に第1文型を復習する。	aimer, aller, finir, prendre等主要動詞の活用をマスターし、フランス語の表現領域を広げることができる。	永野
4	冠詞の全体像を把握する。 主に第2文型と第3文型を復習する。	否定文と冠詞の関係を理解し、冠詞を正しく使うことができる。	永野
5	面倒な活用を避ける時制 近接過去と近接未来	近い過去に起きた事と近い未来に起きる事を表現できる。	永野
6	疑問形	疑問形を学び、フランス語で質問ができる。	永野
7	命令形	表現ができる。	永野
8	前置詞と前置詞句	前置詞句が示す限定関係の理解を深め、適切な表現ができる。	永野
9	複合過去1)	時制の中でも特に頻繁に使う複合過去を使いこなすことができる。助動詞êtreを使う複合過去形を学ぶ。	永野
10	複合過去2)	助動詞avoirを使う複合過去形を学ぶ。	永野
11	所有形容詞 代名動詞	相手の名前を聞くことができ、自己紹介ができるようになる。「あなたの名前はなんというのですか?」	永野
12	接続詞	接続詞のqueを学ぶことで表現の幅を広げることができる。	永野
13	疑問形容詞と非人称主語	「何時ですか?」等の時間の聞き方ができるようになる。	永野
14	代名動詞の復習と自己紹介	「わたしは散歩します」「わたしは～といます」という言い方をマスターする。	永野
15	総復習	基礎会話ができるようになる。	永野

【授業実施形態】

面接授業

授業実施形態は、各学部（研究科）、学校の授業実施方針による

【評価方法】

定期試験 100%

【教科書】

「クロワッサン 基礎からわかるフランス語」朝日出版社

【参考書】

特になし。

【備考】

辞書の購入（種類は問わない）

試験について、履修生が小人数の場合は、授業の15回目に口頭試験または詩の暗唱

【学修の準備】

講義で学習した内容を再度復習すること。（復習30分）

内容が分からなくとも、インターネット等を利用して、普段からフランス語に接するように心がける。（予習30分）

【ディプロマ・ポリシー(学位授与方針)との関連】

DP5： 多様な文化や価値観を尊重して地域社会に貢献できる能力を身につけている。

DP4： 保健・医療・福祉をはじめ、人間に関する様々な領域の人々と連携・協働できる能力を身につけている。